第23回小学校英語教育学会（JES）近畿・京都大会

小学校おける意図的・付随的語彙指導の実践

―語彙知識の発達に資するのはどちらか？―

弘前大学教育学部
佐藤　剛

弘前大学教育学部附属小学校
田中　久絵　工藤　麻乃

学習指導要領

〔第３学年及び第４学年〕

〔知識及び技能〕

（1）英語の特徴等に関する事項

2　内　容

〔知識及び技能〕

（1）英語の特徴等に関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して，次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。

学習指導要領

〔第５学年及び第６学年〕

〔知識及び技能〕

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

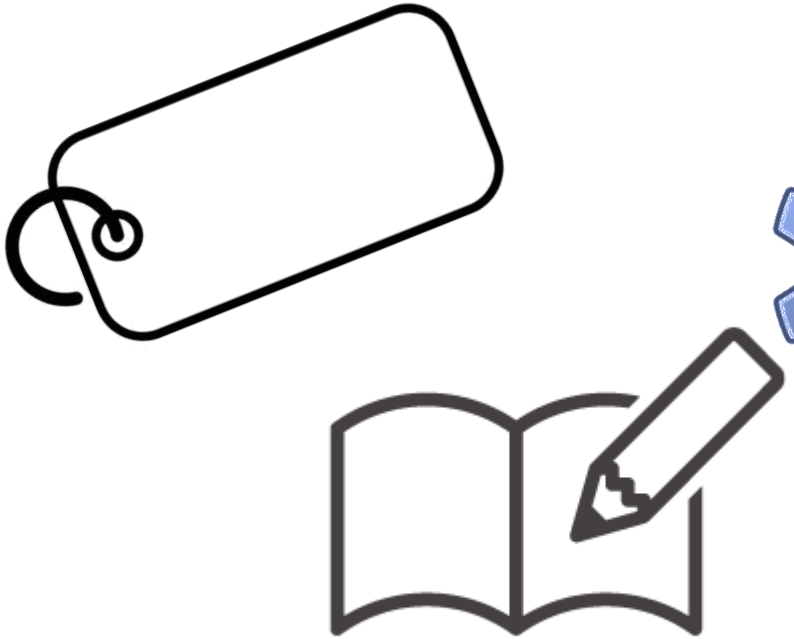
実際に英語を用いた言語活動を通して，次に示す言語材料のうち，１に示す五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに，言語材料と言語活動とを効果的に関連付け，実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

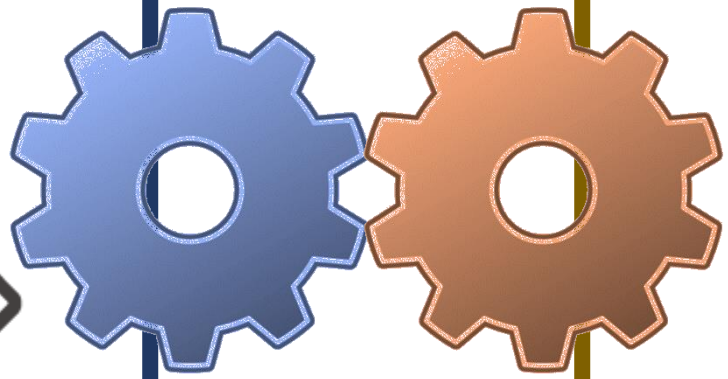
学習指導要領

これらの言語材料のうち，１に示した五つの領域のそれぞれの目標を達成するのに適切なものを選択して理解させるとともに，個別の知識や技能としてのみならず，獲得した知識や技能が実際のコミュニケーションで活用できるように指導することが大切である。なお，その際，言語材料を言語活動と切り離して，「知識及び技能」として個別に指導するのではなく，常に言語活動と併せて指導することが大切であることから，「言語材料と言語活動とを効果的に関連付け」て指導することとしている。

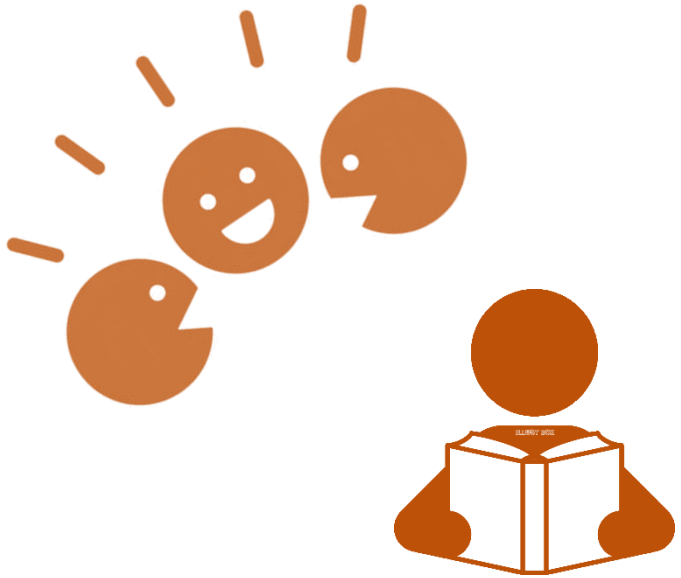
語彙学習

意図的学習



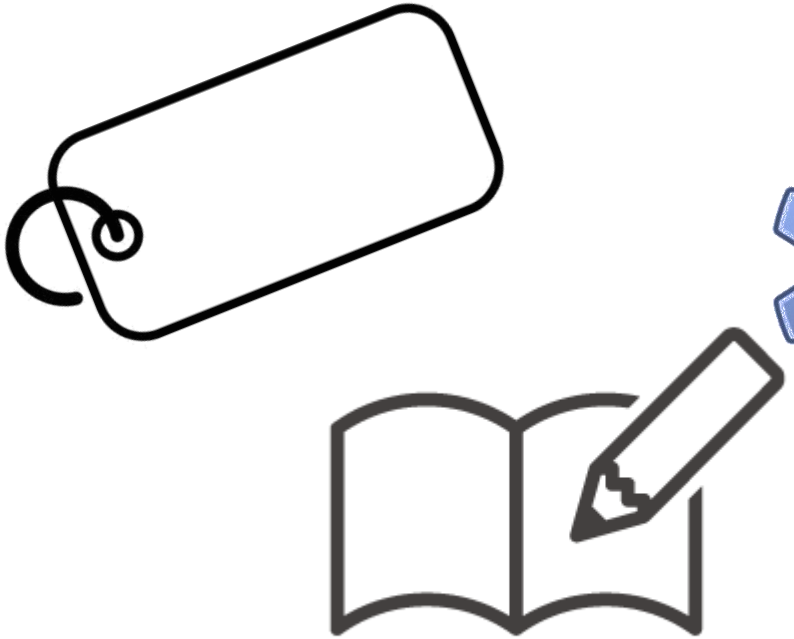


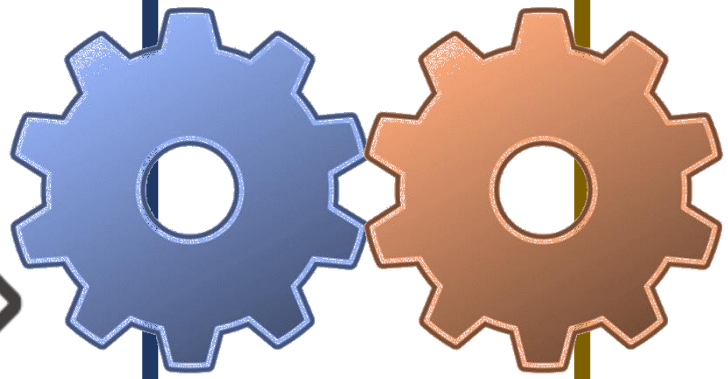
付随的学習



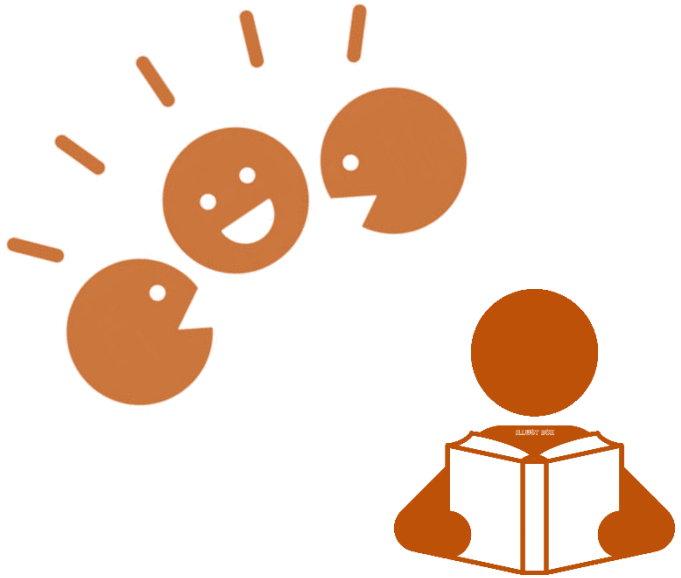
語彙学習

意図的学習



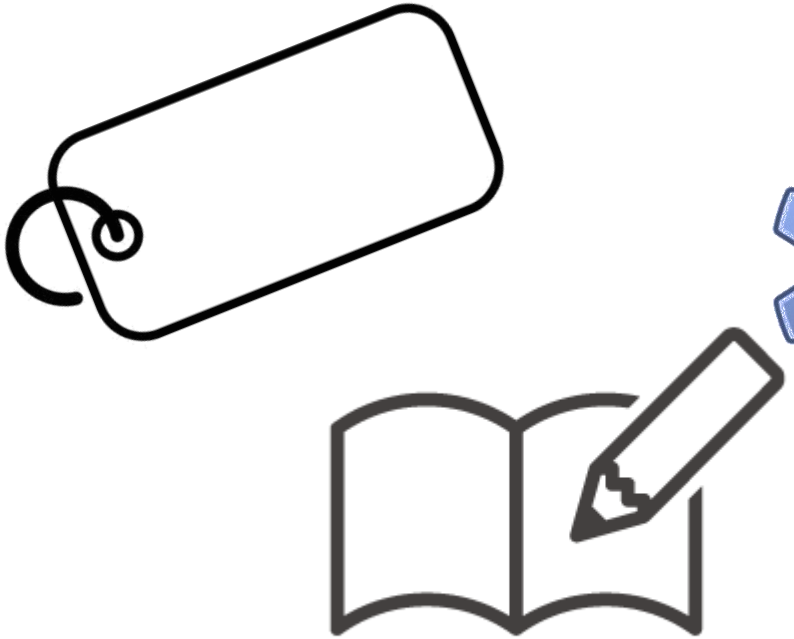


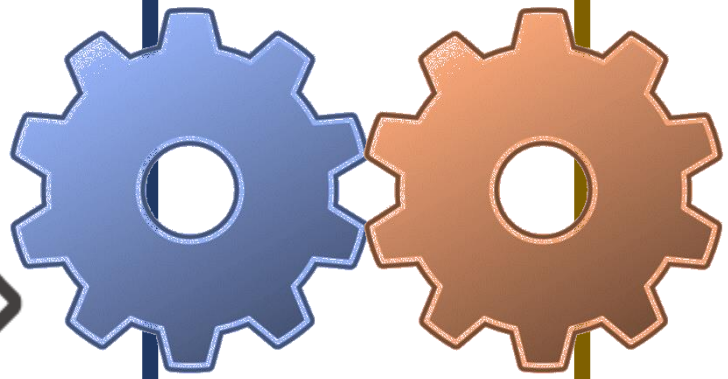
付随的学習



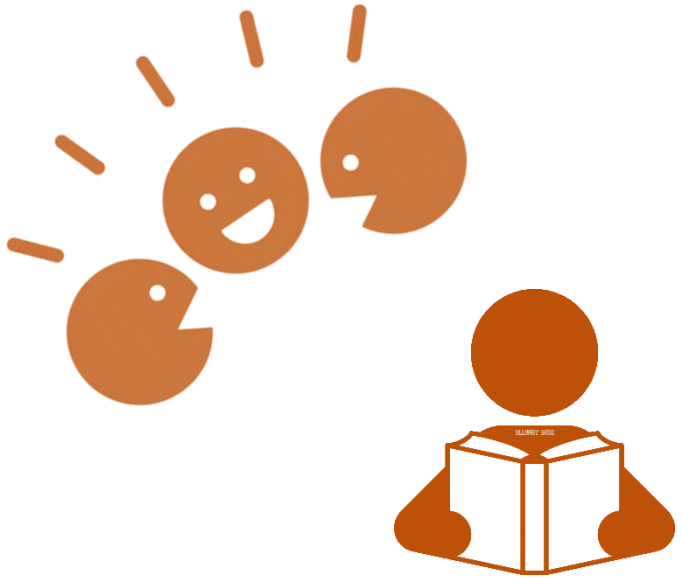
語彙学習

意図的学習





付随的学習



以下の単語を覚えるとして

개

사자

코끼리

- 単語を単語して知っているだけでは不十分
- 付随的な語彙学習だけで指導して切れるのか？
- 付随的語彙学習＋意図的語彙学習のバランス

実践内容

- 弘前大学教育学部附属小学校5・6年生165名
- 意図的語彙学習と付随的語彙学習を組み合わせた指導を1年間実施
- 実践の前後で語彙サイズテストを実施して統計的な差を検証

実践内容

事前テスト

意図的語彙学習（帯活動）

付随的語彙学習（言語活動）

Small Talk, インタビュー活動，プレゼンテーション，リアクション，振り返り

事後テスト

意図的語彙学習

- ビンゴ
- 授業の開始5～10分毎回実施
- 事前に埋めて来たビンゴシートのALTが読み上げたものをチェックする

付随的語彙学習（田中T）

- 単元のゴールのイメージを持たせる
- 授業の最初のSmall Talkなど
- リアクションをすることに慣れさせる
- 児童の興味・関心・実態に応じて題材を変える

付随的語彙学習（工藤T）

- 考えがもてなくて言語活動ができないということを防ぐために
- プレゼンテーション・やりとり
- 児童同士のコミュニケーション

結果

- ビンゴで学習した語彙とビンゴには出現しない語彙の両方を含む語彙テストを実施
- 正答率をテストの実施時期×学習タイプの二元配置分散分析で比較

- 音声を聞いて意味を選ぶ多肢選択テスト
- 小学生の英語教材のコーパスデータを基にした1,000語のリスト
- ビンゴで扱った語：20語
- ビンゴで扱っていない語：20語

えいご テスト

ねん	くみ	ばん	なまえ

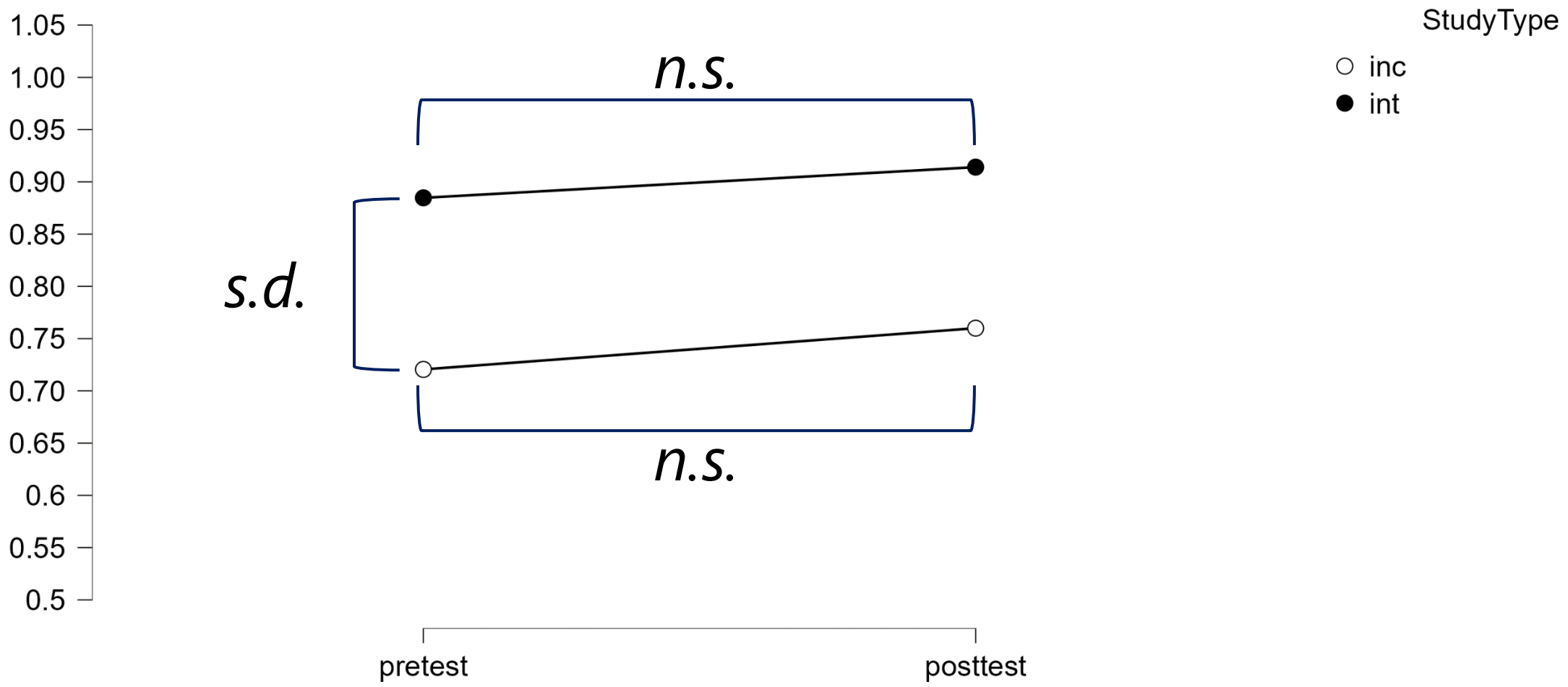
HIRODAIFUZOKU-400A

よまれた英語(えいご)の意味(いみ)を（あ）～（え）からえらんで○(まる)でかこみましょう。

もんだい1			
（あ）いいですよ	（い）いっしょに～しましょう	（う）～してください	（え）～することができる
もんだい2			
（あ）行(い)く	（い）～がすきである	（う）～を作(つく)る	（え）見(み)える・会(あ)う
もんだい3			
（あ）～を聞(き)く	（い）～を飲(の)む	（う）おどる	（え）～を切(き)る
もんだい4			
（あ）家(いえ)	（い）川(かわ)	（う）神社(じんじゃ)	（え）通(とお)り・車道(しゃどう)
もんだい5			
（あ）～といっしょに	（い）～の	（う）～のために	（え）～の中(なか)に
もんだい6			
（あ）イヌ	（い）コアラ	（う）パンダ	（え）ライオン

結果

- 交互作用（$F(1, 38) = 0.23$, $p = .637$, $\eta 2 = .00$）
- 学習タイプの主効果,　（$F(1, 38) = 6.40$, $p = .002$, $\eta 2 = .14$）
- テストの実施時期の主効果（$F(1, 38) = 10.52$, $p = .00$, $\eta 2 = .01$）



Result of two-way ANOVA (testtime x studytype)

IRTの等化による語彙の難易度

- ビンゴに出てくる語（＝＊が付いている語）は事前テストから項目困難度が低い傾向が見られる
- ビンゴに出てこない語（＝＊が付いていない語）は事前テストから項目困難度が高い傾向が見られる

Item	location
36guitar*	-4.70902
04house*	-4.12176
09big*	-4.12176
30soccer*	-4.12176
03cut	-3.76752
06dog*	-3.76752
10icecream*	-3.76752
11chocolate	-3.76752
20book*	-3.76752
27number	-3.76752
16teacher*	-3.51082
17fish	-3.51082
08touch	-3.30848
14cook*	-3.14095

IRTの等化による語彙の難易度

- ビンゴに出てくる語（＝＊が付いている語）は事後テストから項目困難度が低い傾向が見られる
- ビンゴに出てこない語（＝＊が付いていない語）は事前テストから項目困難度が高い傾向が見られる

Form	Item	location
F1	03cut	-3.17126
F1	14cook*	-3.17126
F1	04house*	-3.17126
F1	06dog*	-3.17126
F1	11chocolate	-3.17126
F1	16teacher*	-3.17126
F1	20book*	-3.17126
F1	27number	-3.17126
F1	30soccer*	-3.17126
F1	36guitar*	-3.17126
F3	07pig	-2.95988
F3	11soup	-2.95988
F3	15black	-2.95988
F3	20bed*	-2.95988
F3	27paper	-2.95988

児童の観察からみられる成果

- 書き写しが早くなった
- 文字への抵抗が少なくなった
- 文字と音声の一致
- 自然とアルファベットが書けるようになった

音声のテストではなく，英語の文字と音声を結びつけるテストであれば効果が得られる可能性がある

まとめと今後課題

- 意図的語彙学習／付随的語彙学習とも事前・事後で有意な伸びは見られなかった
- 意図的語彙学習（ビンゴ）で身につく語彙力とは何か
- 意図的／付随的語彙学習それぞれで指導するべき語彙の見極め
- 「言語活動を通して」ではなかなか身につかない語彙を意図的語彙学習で補完する語彙指導と教材開発